

第2章 こども・子育てを取り巻く現状

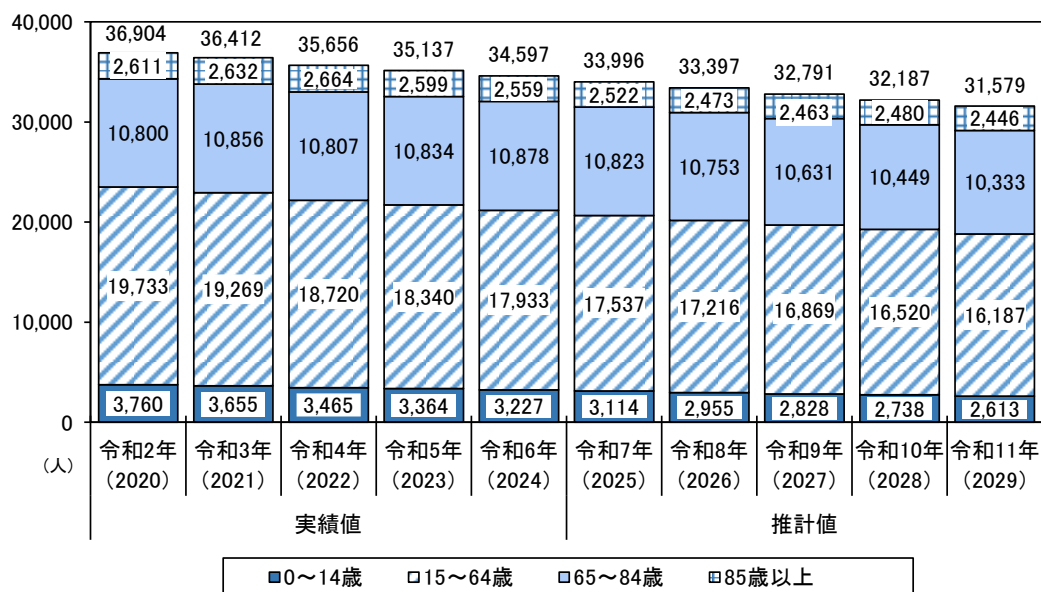
1 統計からみる本市の状況

(1) 人口の状況

①人口の推移と推計人口

本市の総人口は令和2年(2020年)の36,904人から令和6年(2024年)にかけて2,307人減少しており、今後、令和11年(2029年)には31,579人まで減少していく見込みとなっています。

【人口の推移と推計人口】

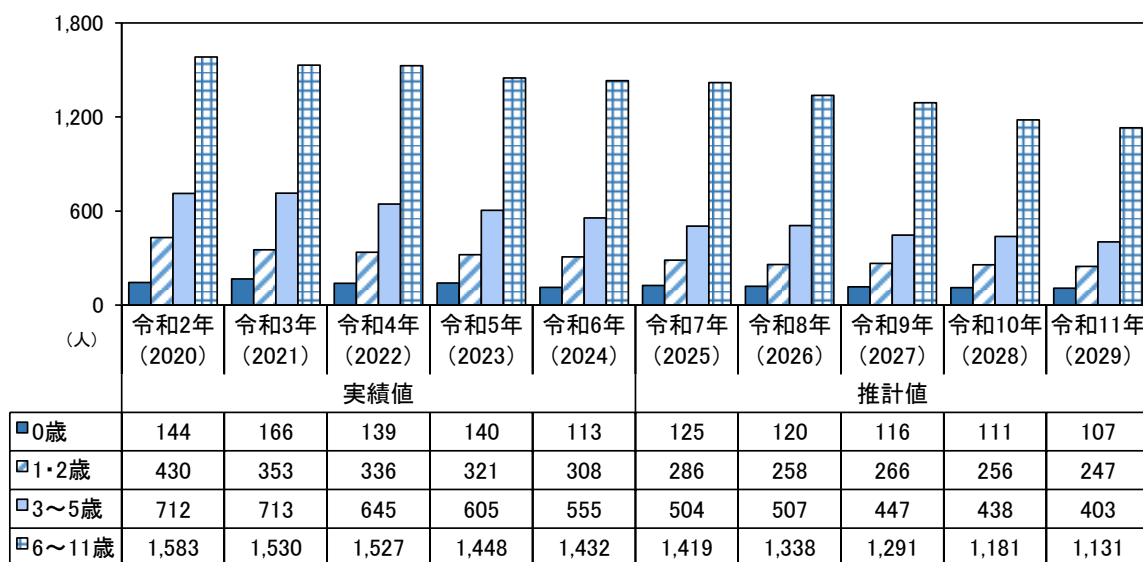


資料:住民基本台帳 各年4月1日時点
推計値はコーホート変化率法による推計

②こどもの人口推移・推計

総人口と同様に、こどもの人口も減少傾向が続くと見込まれ、令和10年(2028年)には0～11歳の人口が2000人を下回ると見込まれています。

【こどもの人口推移・推計】



単位:人

	実績値					推計値				
	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)
0～11歳	2,869	2,762	2,647	2,514	2,408	2,334	2,223	2,120	1,986	1,888
0歳	144	166	139	140	113	125	120	116	111	107
1歳	193	159	174	142	160	121	134	128	124	119
2歳	237	194	162	179	148	165	124	138	132	128
3歳	220	238	196	168	186	151	169	127	141	135
4歳	256	216	234	202	166	186	151	169	127	141
5歳	236	259	215	235	203	167	187	151	170	127
0～5歳	1,286	1,232	1,120	1,066	976	915	885	829	805	757
6歳	248	241	258	220	240	206	169	189	153	172
7歳	219	248	238	257	222	239	205	168	188	153
8歳	260	221	249	238	263	223	240	206	169	189
9歳	304	259	224	251	237	264	224	241	207	170
10歳	255	302	259	221	250	236	263	223	240	206
11歳	297	259	299	261	220	251	237	264	224	241
6～11歳	1,583	1,530	1,527	1,448	1,432	1,419	1,338	1,291	1,181	1,131

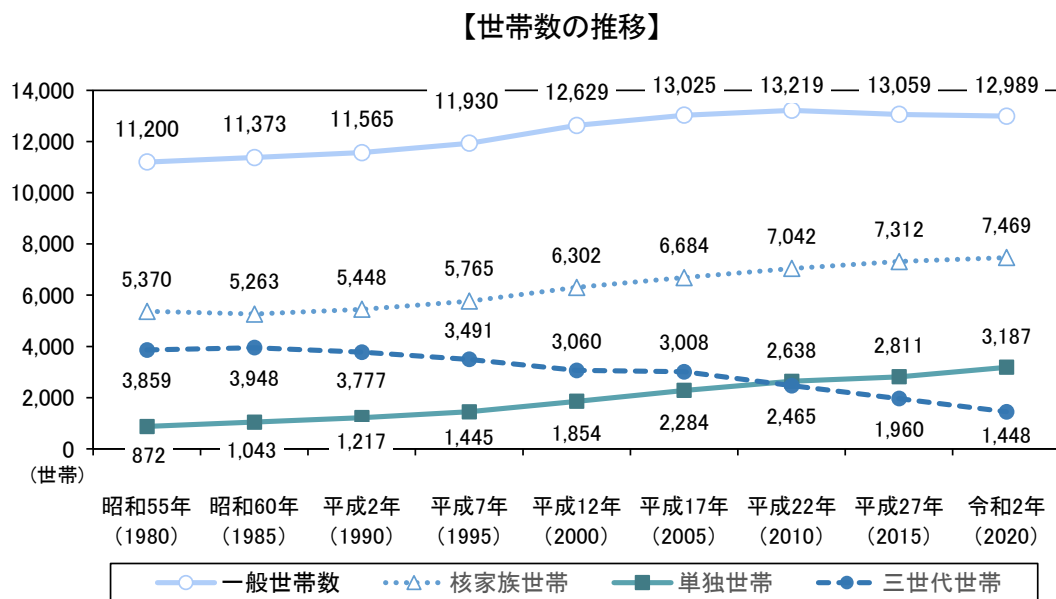
資料:住民基本台帳 各年4月1日時点

推計値はコーホート変化率法による推計

(2) 世帯数・世帯類型

①世帯数の推移

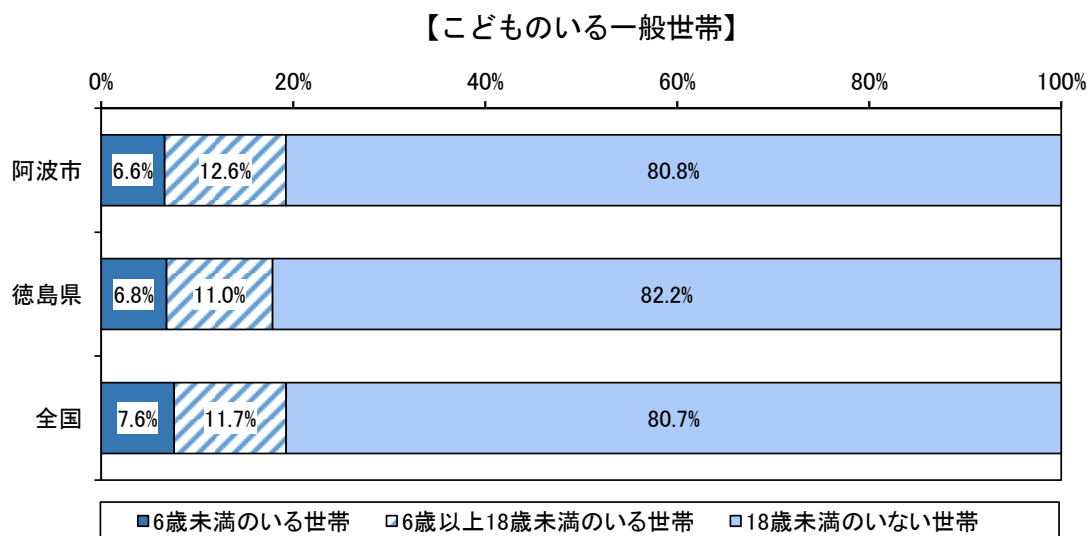
本市の一般世帯数は平成22年(2010年)まで増加傾向にありましたが、平成27年(2015年)以降は緩やかに減少しており、令和2年(2020年)には12,989世帯となっています。単独世帯が増加している一方で、三世代世帯は減少が続いています。



出典: 国勢調査

②こどものいる一般世帯

令和2年(2020年)の本市の一般世帯12,989世帯のうち、6歳未満児のいる世帯は857世帯(6.6%)、6歳以上18歳未満の児童のいる世帯は1,642世帯(12.6%)となっており、全国平均・県平均並みとなっています。

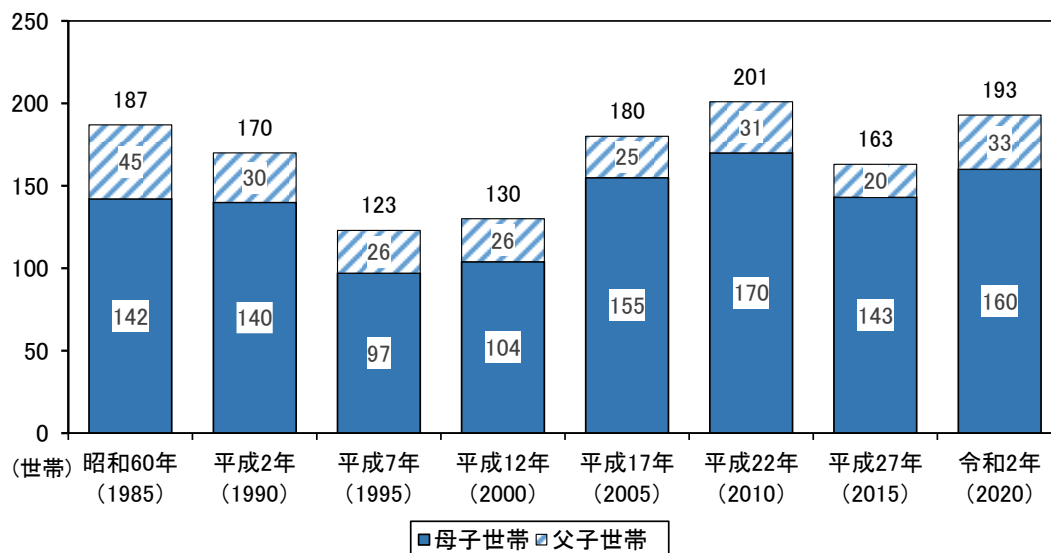


出典: 国勢調査

③ひとり親世帯数の推移

ひとり親世帯数(母子世帯・父子世帯)は、昭和60年(1985年)からこれまで増減を繰り返し、令和2年(2020年)では193世帯となっています。

【ひとり親世帯数の推移】

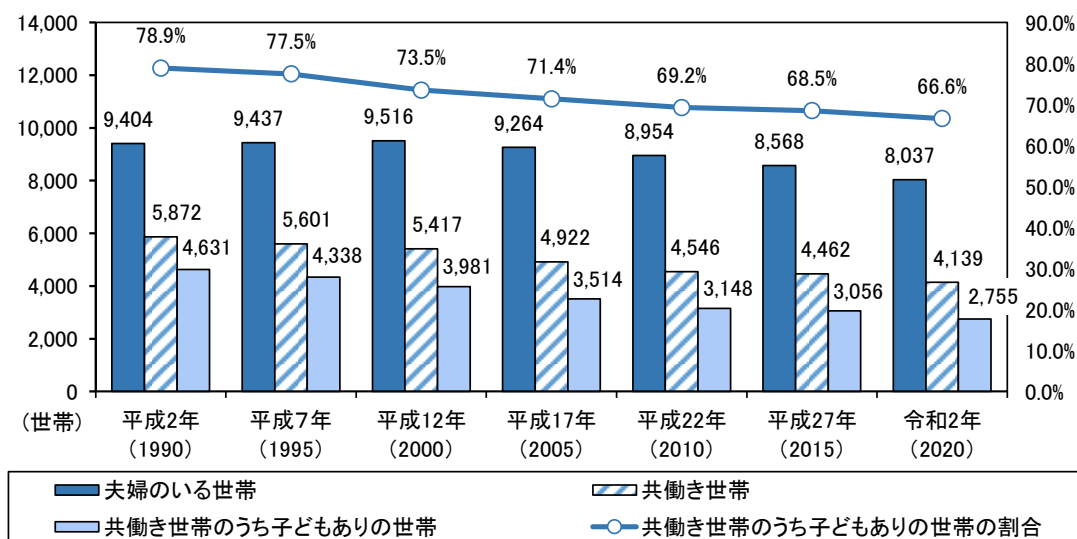


出典:国勢調査

④共働き世帯数の推移

共働き世帯数の推移をみると、平成2年(1990年)以降緩やかに減少を続け、令和2年(2020年)は4,139世帯となっています。共働き世帯のうちこどものいる世帯の割合も減少傾向となっており、令和2年(2020年)では2,755世帯(66.6%)となっています。

【共働き世帯数の推移】



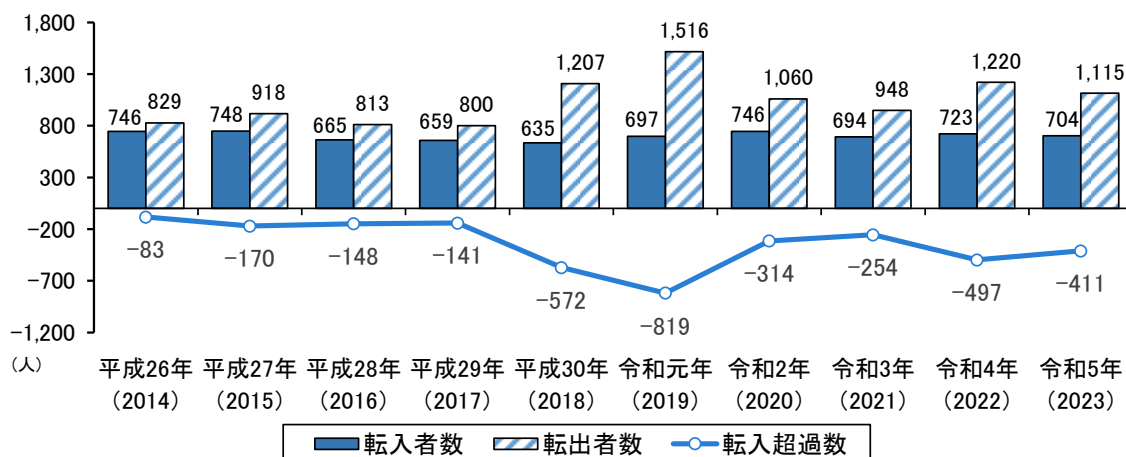
資料:国勢調査

(3) 人口動態

①社会動態の推移

本市の転入者数は平成26年(2014年)以降700人程度を前後している反面、転出者数が平成30年(2018年)から令和元年(2019年)にかけて大幅に増加しており、それに伴い、転入から転出を差し引いた転出超過数はマイナス819まで落ち込みましたが、以降転出者数が減少傾向にあり、令和5年(2023年)にはマイナス411となっています。

【社会動態の推移】



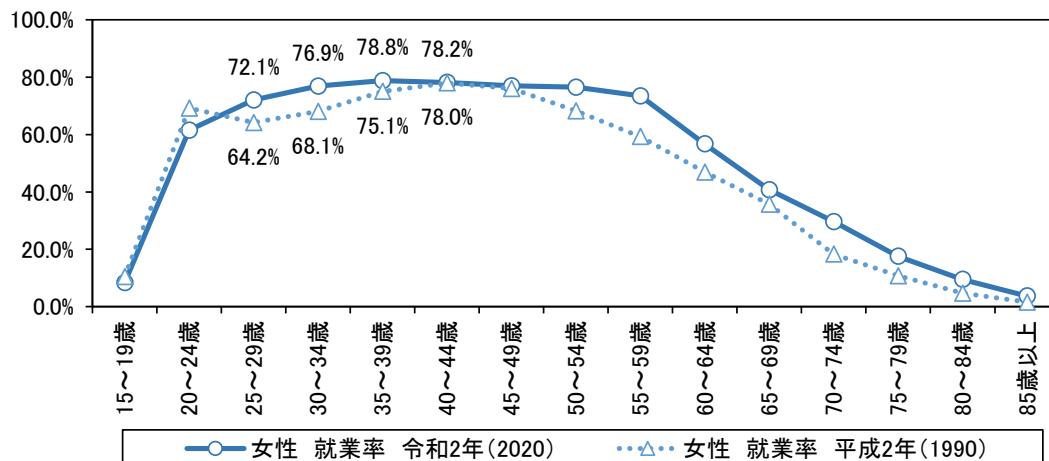
出典:住民基本台帳人口移動報告

(4) 就労状況

①女性の就業率

女性の就業率(15歳以上の人口に対する就業者の割合)をみると平成2年(1990年)時点では25～34歳の区分において(結婚や出産などを理由に)就業率が低下する状況となっていました。令和2年(2020年)では、25～34歳での就業率の低下によるM字曲線の傾向は見られなくなり、ほぼすべての年齢区分において働く女性の割合が増えています。

【女性の就業率：令和2年と平成2年の比較】

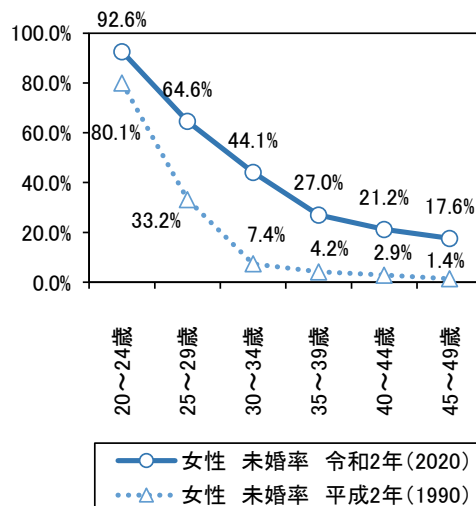
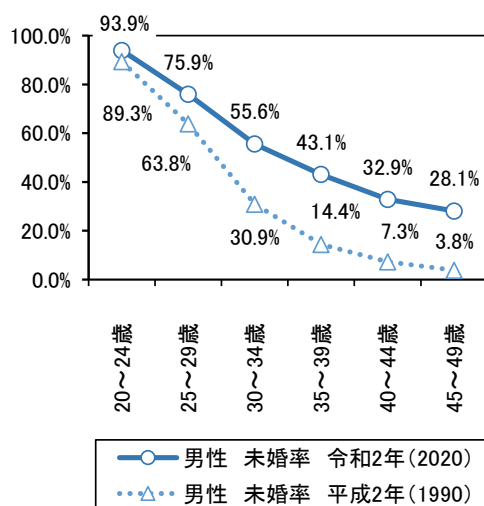


資料:国勢調査

②性年齢区分別の未婚率の推移

性年齢区分別の未婚率について、平成2年(1990年)と令和2年(2020年)を比較すると、いずれの区分においても未婚率が増加しており、特に男性の方が女性と比べて未婚率が高くなっています。

【性年齢区分別の未婚率の推移：令和2年と平成2年の比較】



出典:国勢調査

2 「阿波市こども計画」に関するニーズ調査結果からみえる現状

(1) 保護者調査概要

①調査目的

本調査は、「阿波市こども計画」の策定にあたって、本市における教育・保育事業や子育て支援事業の利用状況、希望等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

②調査の実施について

	就学前児童の保護者	小学生の保護者
調査対象	令和6年1月1日現在、市内に在住する就学前児童(0～5歳)の保護者	令和6年1月1日現在、市内に在住する小学1年生から6年生の保護者
調査方法	・市内の施設利用者 施設を通して配布・回収 一部郵送回収 ・在宅児等 郵送による配布・回収	・市内の小学校に通学する児童 小学校を通して配布・回収 一部郵送回収 ・市外の小学校等に通学する児童 郵送による配布・回収
調査期間	令和6年3月4日～令和6年3月17日	

③配布件数

	就学前児童の保護者	小学生の保護者
配布件数	784 件	1,116 件

④有効回答件数及び有効回答率

	就学前児童の保護者	小学生の保護者
回収件数	544 件	783 件
有効回答件数	544 件	783 件
有効回答率	69.4%	70.2%

(2) 小学5～6年生、中学2年生、若者世代調査概要

①調査目的

本調査は、「阿波市こども計画」を策定するにあたり、今後の教育や子育て支援施策を充実させ、「子育て」「子育て」を各地域が一体となって支援するために、こども・若者世代の現状やニーズの把握を目的に実施しました。

②調査の実施について

	小学5～6年生調査	中学2年生調査	若者世代調査
調査対象	令和6年1月1日現在、市内の小学校に通学する小学5～6年生	令和6年1月1日現在、市内の中学校に通学する中学2年生	令和6年1月1日現在、市内に在住する高校生世代から 39 歳までの方から無作為抽出
調査方法	小学校を通して配布・回収 一部郵送回収	中学校を通して配布・回収 一部郵送回収	郵送による配布・回収
調査期間	令和6年3月4日～令和6年3月 17 日		

③配布件数

	小学5～6年生調査	中学2年生調査	若者世代調査
配布件数	474 件	235 件	700 件

④有効回答件数及び有効回答率

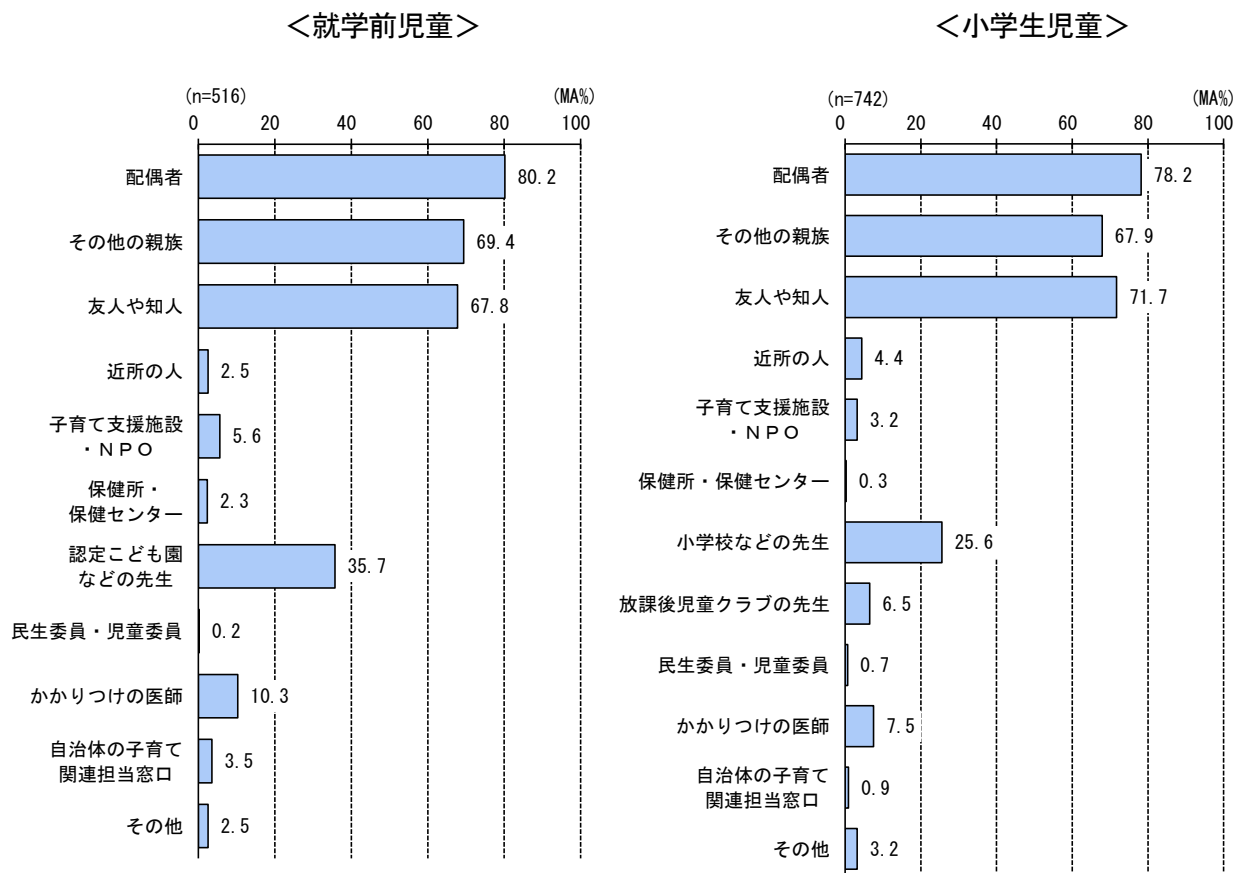
	小学5～6年生調査	中学2年生調査	若者世代調査
回収件数	431 件	223 件	190 件
有効回答件数	425 件	220 件	190 件
有効回答率	89.7%	93.6%	27.1%

3 調査結果（保護者調査）

（１）こどもの育ちをめぐる環境について

- 子育てに関する相談先は、就学前児童では「配偶者」が80.2%で最も多く、次いで「その他の親族」が69.4%、「友人や知人」が67.8%となっています。
- 小学生児童では、「配偶者」が78.2%で最も多く、次いで「友人や知人」が71.7%、「その他の親族」が67.9%となっています。

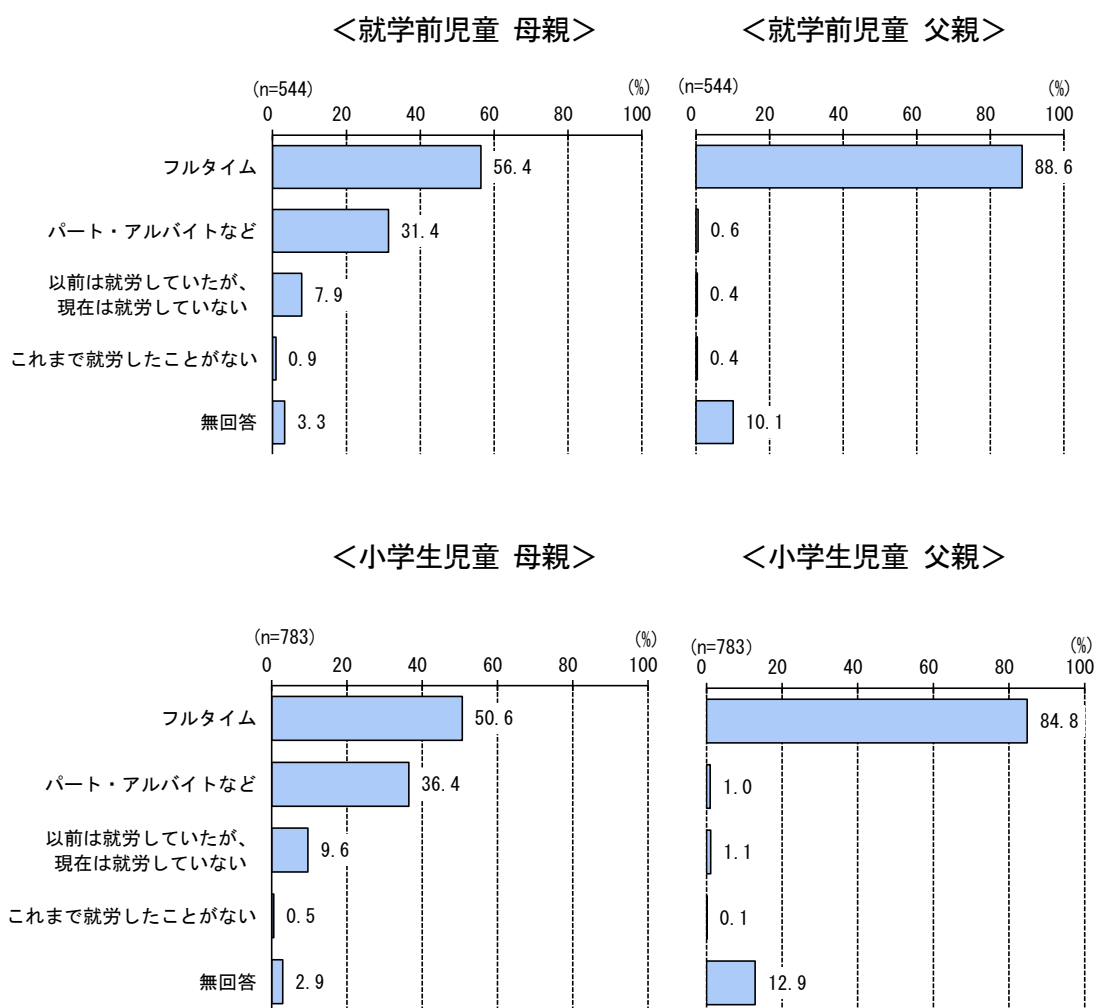
【子育てに関する相談先(MA)】



(2) 保護者の就労状況について

- 就学前児童の母親の就労状況は、「フルタイム」が56.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイトなど」が31.4%、「以前は就労していたが現在は就労していない」が7.9%となっています。父親の就労状況は、「フルタイム」が88.6%で多数を占めています。
- 小学生児童の母親の就労状況は、「フルタイム」が50.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイトなど」が36.4%、「以前は就労していたが現在は就労していない」が9.6%となっています。父親の就労状況は、「フルタイム」が84.8%で多数を占めています。

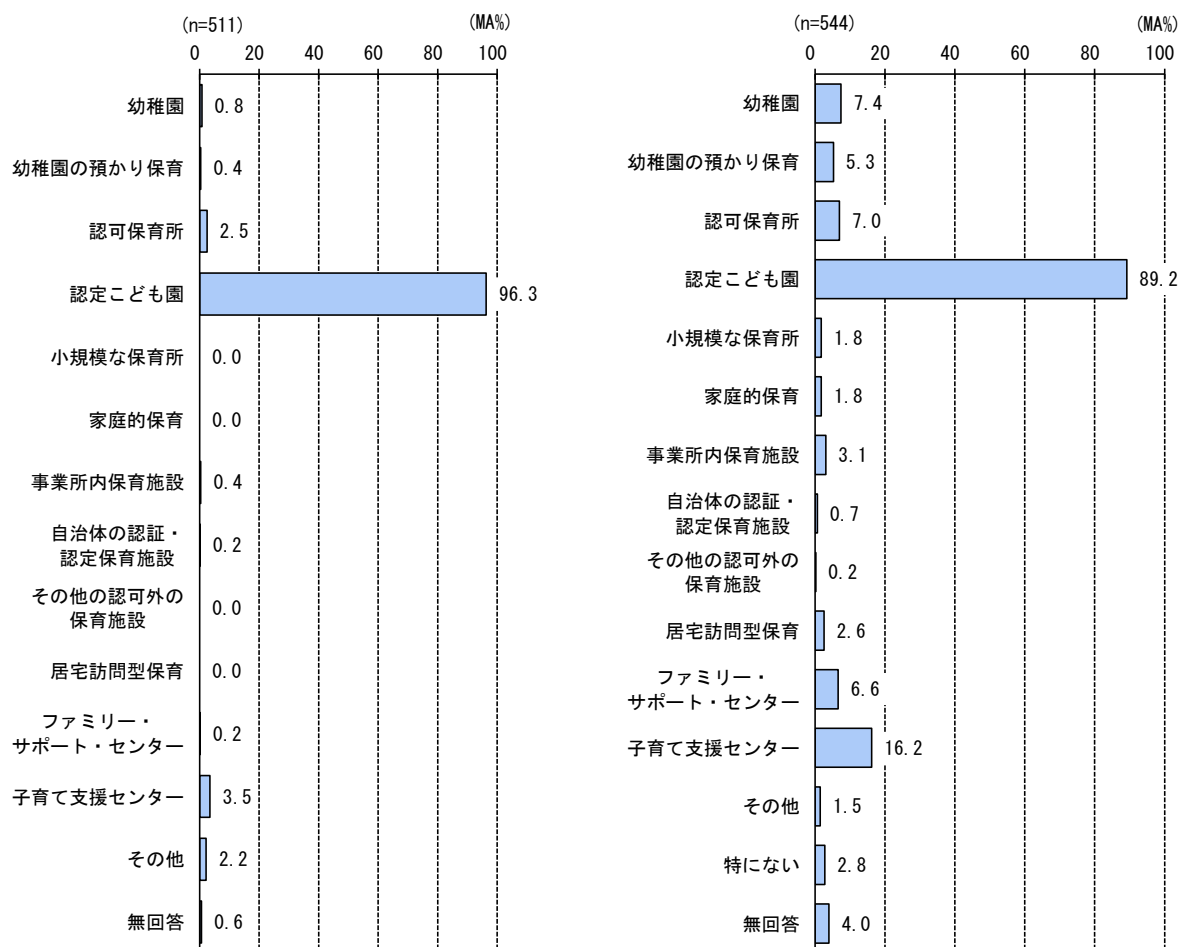
【保護者の就労状況】



(3) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

- 平日に定期的に利用している教育・保育事業は、「認定こども園」が96.3%と大多数を占めています。
- 平日の教育・保育事業として、定期的に利用したい事業は、「認定こども園」が89.2%で多数を占めています。次いで「子育て支援センター」が16.2%、「幼稚園」が7.4%となっています。

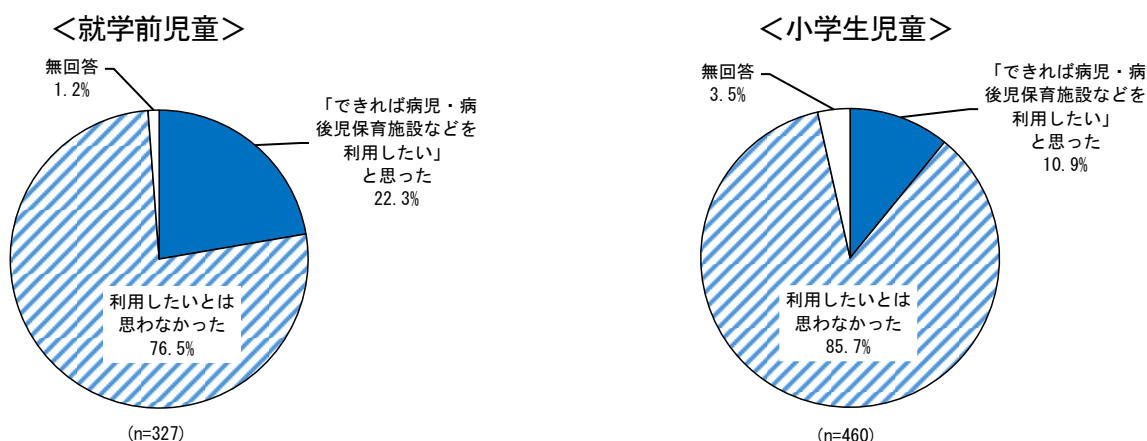
【利用している平日の定期的な教育・保育事業】【利用したい平日の定期的な教育・保育事業】



(4) 病気の際の対応について

- 病児・病後児保育施設等の利用希望は、就学前児童では『できれば病児・病後児保育施設などを利用したい』と思った」が 22.3%、「利用したいとは思わなかった」が 76.5%となっています。
- 小学生児童では、『できれば病児・病後児保育施設などを利用したい』と思った」が 10.9%、「利用したいとは思わなかった」が 85.7%となっています。

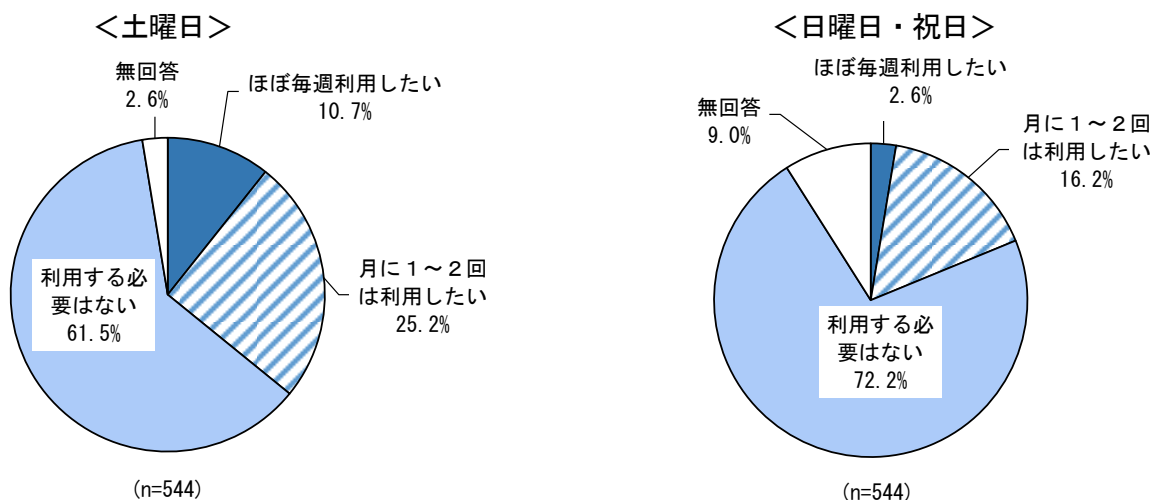
【病児・病後児保育施設等の利用希望】



(5) 土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について (就学前児童)

- 定期的な教育・保育事業の利用希望は、土曜日では「利用する必要はない」が 61.5%と約 6 割を占め最も多く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 25.2%、「ほぼ毎週利用したい」が 10.7%となっています。
- 日曜日・祝日では「利用する必要はない」が 72.2%と約 7 割を占め最も多く、次いで「月に 1～2 回は利用したい」が 16.2%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.6%となっています。

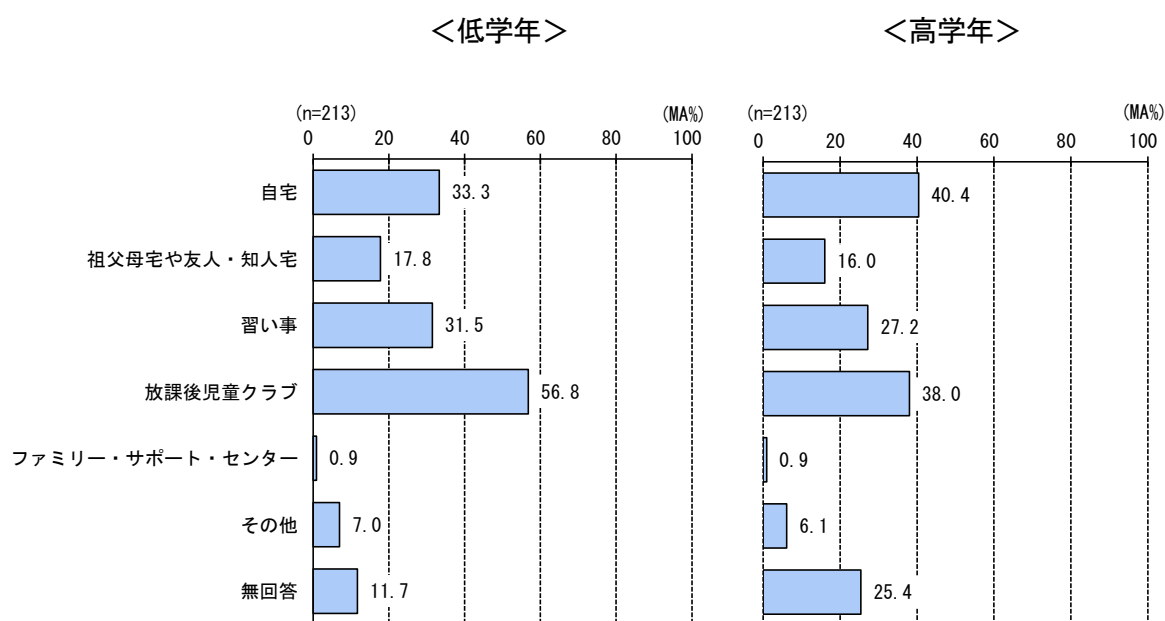
【土曜日、日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望】



(6) 小学校就学後の放課後の過ごし方について（こどもが5歳以上の方のみ）

- 小学校就学後の放課後の過ごし方は、低学年では「放課後児童クラブ（学童保育）」が56.8%で最も多く、次いで「自宅」が33.3%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が31.5%となっています。
- 高学年では、「自宅」が40.4%で最も多く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」が38.0%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が27.2%となっています。

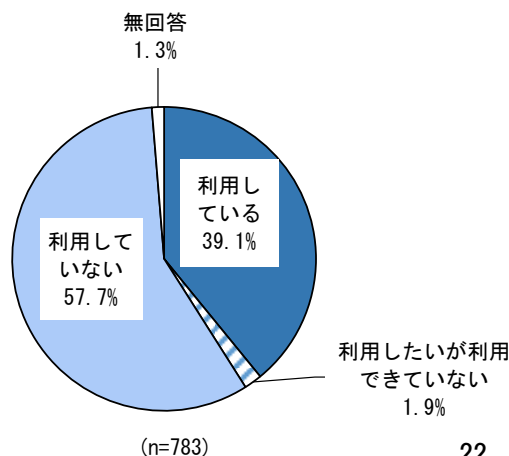
【小学校就学後の放課後の過ごし方(MA)】



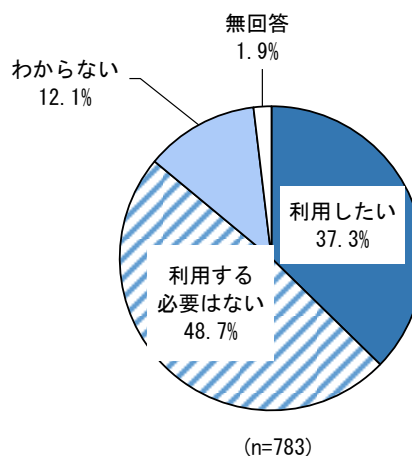
(7) 放課後の過ごし方について（小学生児童）

- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が39.1%、「利用したいが利用できていない」が1.9%、「利用していない」が57.7%となっています。
- 放課後児童クラブの利用希望は、「利用したい」が37.3%、「利用する必要はない」が48.7%、「わからない」が12.1%となっています。

【放課後児童クラブの利用状況】



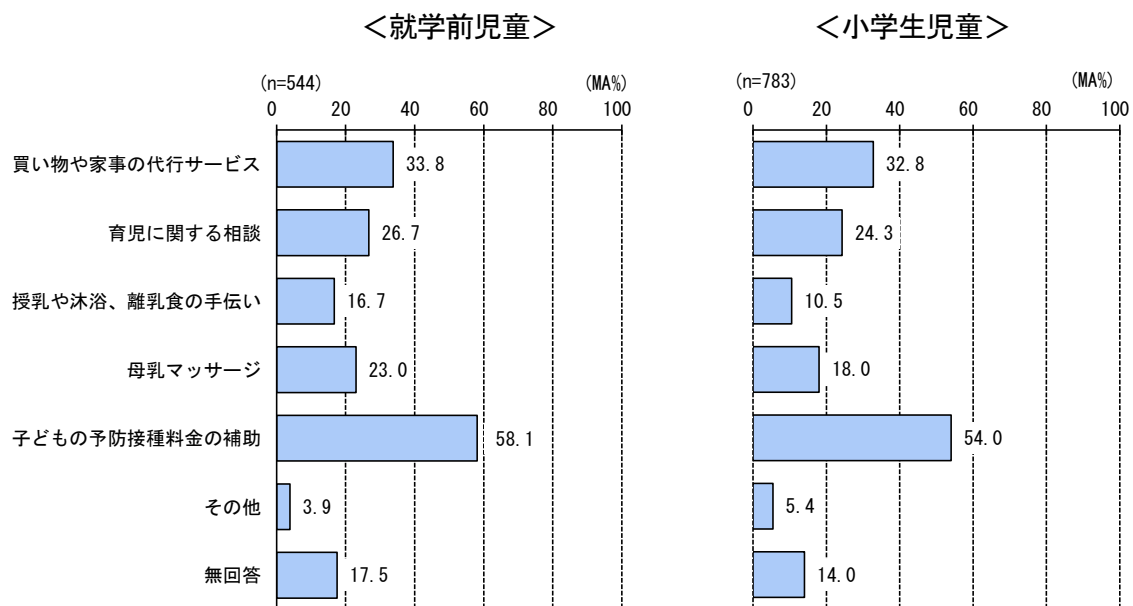
【放課後児童クラブの利用希望】



(8) 子育て支援について

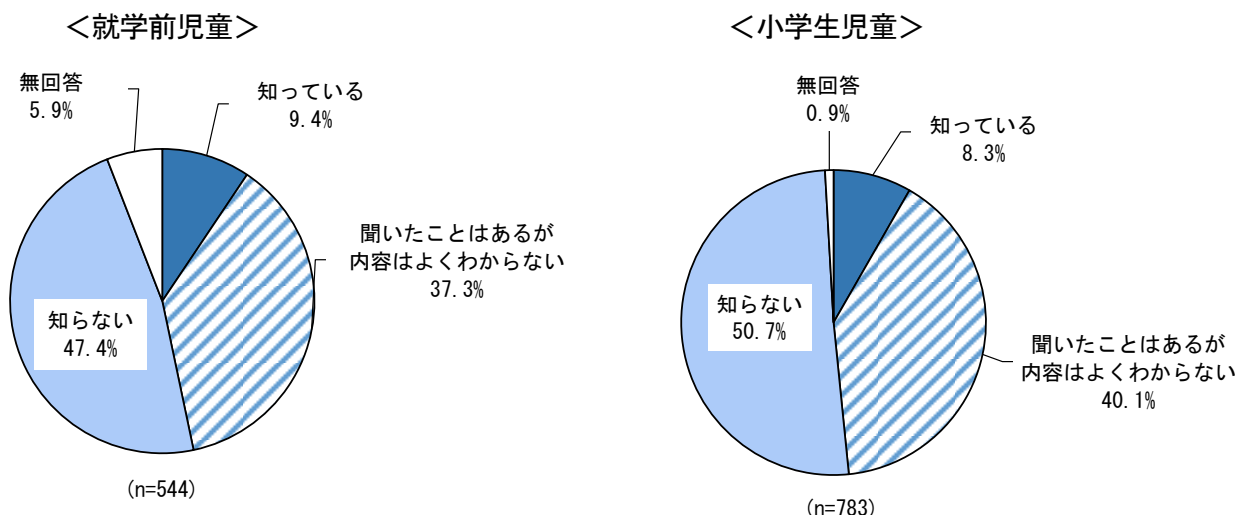
- 妊娠中・在宅での育児中に求めるサービスは、就学前児童では「子どもの予防接種料金の補助」が 58.1%で最も多く、次いで「買い物や家事の代行サービス」が 33.8%、「育児に関する相談」が 26.7%となっています。
- 小学生児童では、「子どもの予防接種料金の補助」が 54.0%で最も多く、次いで「買い物や家事の代行サービス」が 32.8%、「育児に関する相談」が 24.3%となっています。

【妊娠中・在宅での育児中に求めるサービス (MA)】



- 「阿波っ子条例」の認知状況は、就学前児童では「知らない」が 47.4%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が 37.3%、「知っている」が 9.4%となっています。
- 小学生児童では、「知らない」が 50.7%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容はよくわからない」が 40.1%、「知っている」が 8.3%となっています。

【「阿波っ子条例」の認知状況】

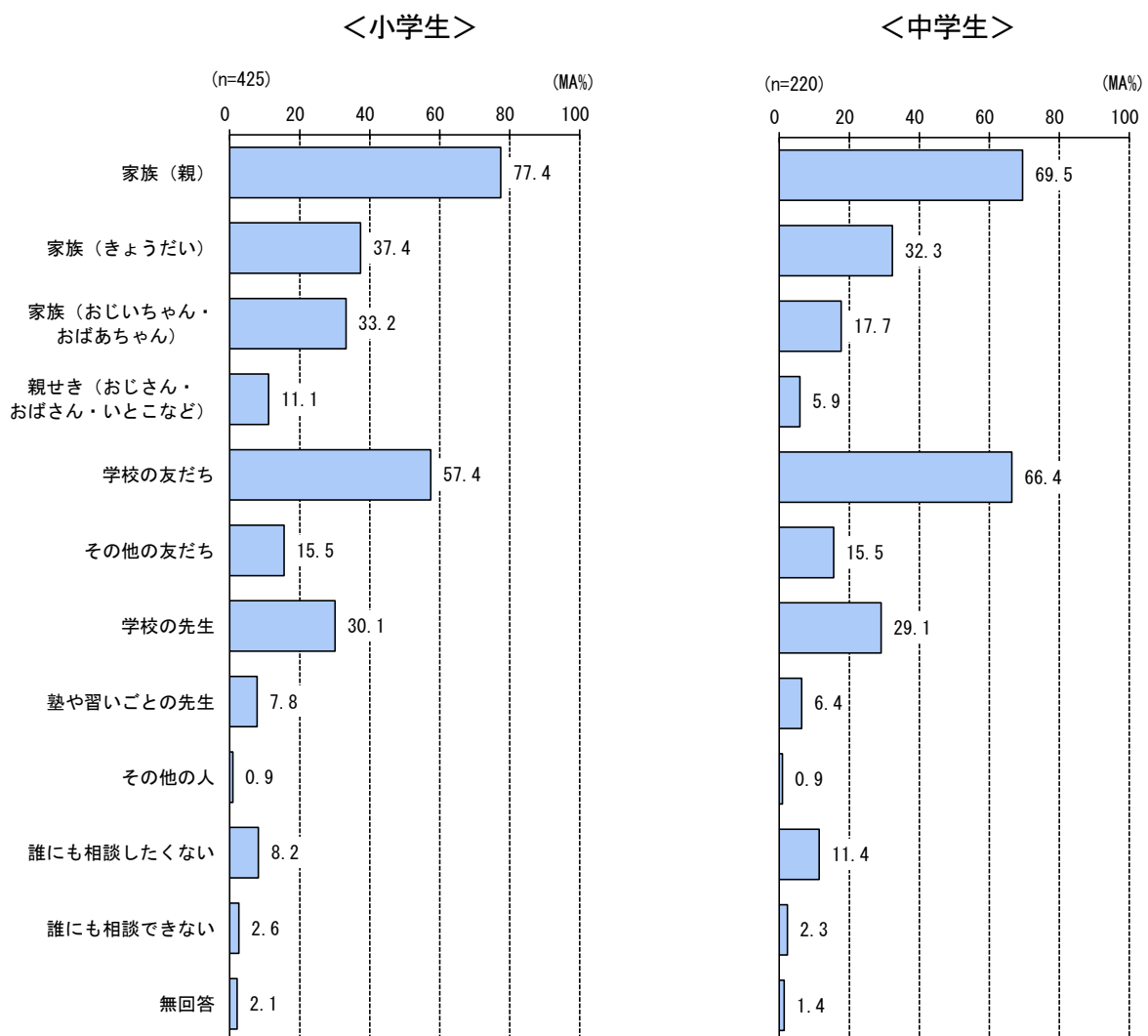


4 調査結果（小学5～6年生、中学2年生、若者世代調査）

（1）悩みの相談相手について

- 悩みの相談相手について、小学生では「家族（親）」が77.4%で最も多く、次いで「学校の友だち」が57.4%、「家族（きょうだい）」が37.4%となっています。
- 中学生では、「家族（親）」が69.5%で最も多く、次いで「学校の友だち」が66.4%、「家族（きょうだい）」が32.3%となっています。

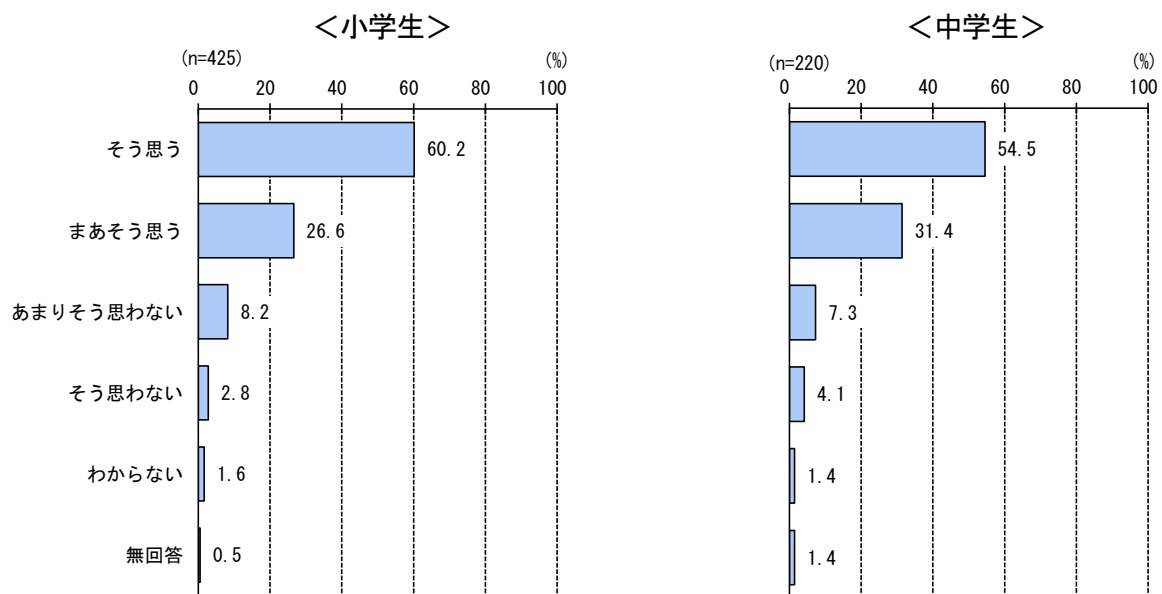
【悩みの相談相手(MA)】



(2) ふだん考えていることについて

- 「努力すれば、できるようになると思うか」について、小学生では「そう思う」が60.2%で最も多く、次いで「まあそう思う」が26.6%、「あまりそう思わない」が8.2%となっています。
- 中学生では、「そう思う」が54.5%で最も多く、次いで「まあそう思う」が31.4%、「あまりそう思わない」が7.3%となっています。

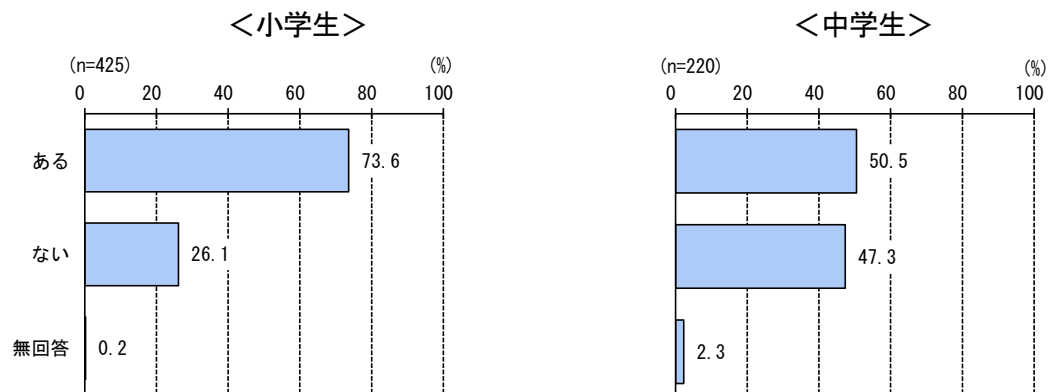
【努力すれば、できるようになると思うか】



(3) 将来のことについて

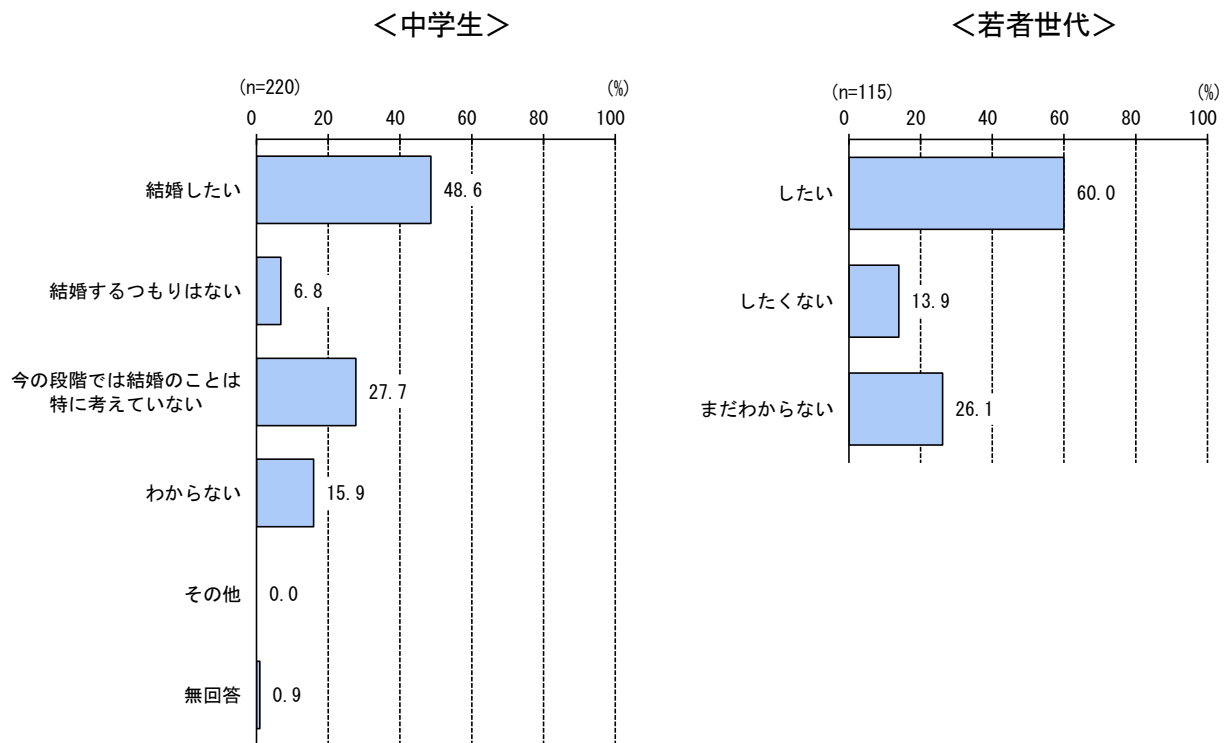
- 将来の夢や、なりたい職業について、小学生では「ある」が73.6%、「ない」が26.1%となっています。
- 中学生では、「ある」が50.5%、「ない」が47.3%となっています。

【将来の夢や、なりたい職業】



- 将来の結婚観について、中学生では「結婚したい」が48.6%で最も多く、次いで「今の段階では結婚のことは特に考えていない」が27.7%、「わからない」が15.9%となっています。
- 若者世代では、「したい」が60.0%で最も多く、次いで「まだわからない」が26.1%、「したくない」が13.9%となっています。

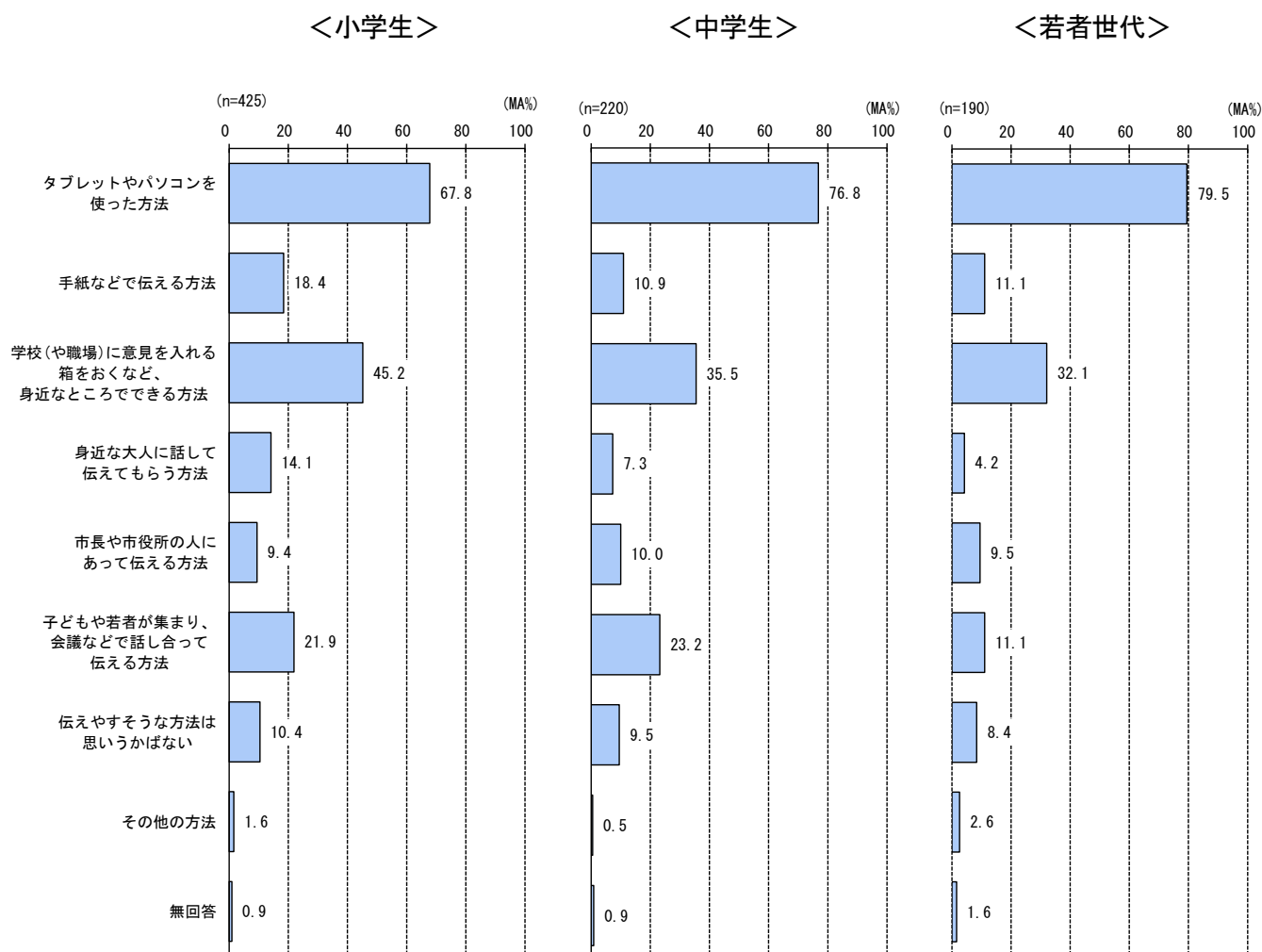
【結婚の希望】



(4) 阿波市のことについて

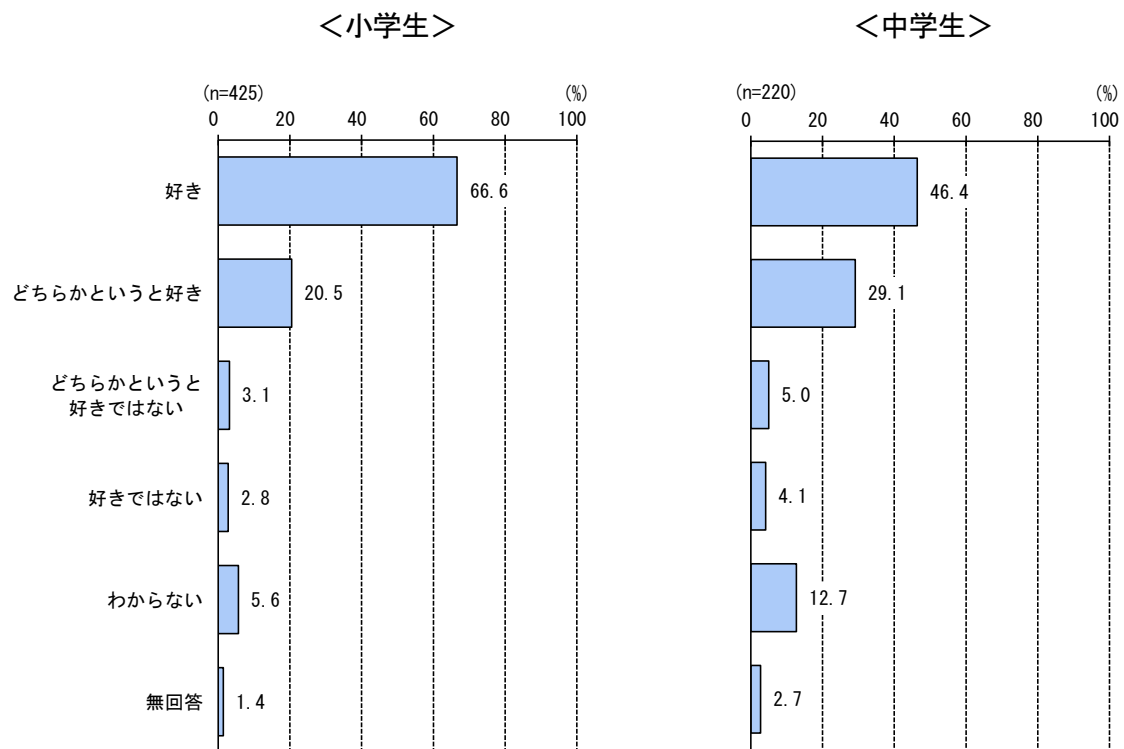
- 市に意見を伝える方法について、小学生では「タブレットやパソコンを使った方法」が 67.8%で最も多く、次いで「学校に意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる方法」が 45.2%、「子どもが集まり、会議などで話し合って伝える方法」が 21.9%となっています。
- 中学生では、「タブレットやパソコンを使った方法」が 76.8%で最も多く、次いで「学校に意見を入れる箱を置くなど、身近なところでできる方法」が 35.5%、「子どもが集まり、会議などで話し合って伝える方法」が 23.2%となっています。
- 若者世代では、「タブレットやパソコンを使った方法」が 79.5%で最も多く、次いで「学校や職場に意見を入れる箱を置くなど、身近なところでできる方法」が 32.1%、「手紙などで伝える方法」「子どもや若者が集まり、会議などで話し合って伝える方法」がそれぞれ 11.1%となっています。

【市に意見を伝える方法(MA)】



- 阿波市が好きかについて、小学生では「好き」が66.6%で最も多く、次いで「どちらかという」と好き」が20.5%、「わからない」が5.6%となっています。
- 中学生では、「好き」が46.4%で最も多く、次いで「どちらかという」と好き」が29.1%、「わからない」が12.7%となっています。

【阿波市が好きか】



- 阿波市に住みたいと思うかについて、小学生では「住みたい」が 42.1%で最も多く、次いで「どちらかというに住みたい」が 23.5%、「わからない」が 17.9%となっています。
- 中学生では、「わからない」が 28.2%で最も多く、次いで「どちらかというに住みたい」が 25.9%、「住みたい」が 19.5%となっています。
- 若者世代では、「住みたいと思う」が 42.1%で最も多く、次いで「どちらかというに住みたいと思う」が 28.4%、「わからない」が 18.9%となっています。

【阿波市に住みたいと思うか】

